ＪＲ総連通信

２０２１年10月8日　№１４８１

全日本鉄道労働組合総連合会（ＪＲ総連）　http://www.jr-souren.com

交運労協第３７回定期総会

議長団：熊谷組織・共闘部長

１０月７日、交運労協「第37回定期総会」が都内で開催されました。総会議長団にはＪＲ総連より熊谷組織・共闘部長が選出され、議事をリードしました。

発言では、ＪＲ総連より小林政策・政治部長が「いかにコロナ禍を突破し、交通運輸産業で働く私たちが、将来に渡って平和で安心して暮らしていけることができるのか。雇用の安定と安全・安心を実現する政策は、まさに交運労協の任務と役割。ＪＲ東日本では、経団連が奨励するポストコロナ時代への対応として、『現業機関における柔軟な働き方』と称した提案がされている。これは駅や乗務、企画業務などを融通する働き方の提案であり、相当な負担が強いられる労働を提供することに繋がる。また、副業も可能となり、『労働時間管理』『安全・健康管理』が社員の自己管理・自己責任とされ、労働者保護ルールの観点など健康確保措置等を求めたルール化など、産別の役割は大きくなる。交運労協には、政策実現のためのリーダーとして連合、政界などへの働きかけを強化することを要請する」と述べました。

発言する小林政策・政治部長